

JAVCOM・JDSF 2012 年夏季技術交流セミナー

副題「これでわかる映像アーカイブの理論と実践」

共同主催：JAVCOM 技術研究委員会・JDSF 技術交流 WG

開催日時：2012 年 7 月 26 日(木)

開催会場：株式会社フォトロン デジックス映像事業本部

今回のテーマにあるアーカイブは、しばしばバックアップと混同されがちである。まずはバックアップとアーカイブの違いを簡単に紹介する。IT システムの中では明確な使い分けがされており、バックアップはシステム障害等で万一データがロストした時に復旧できるように最新のデータを複製しておく。常に最新の状態を保持しておくために、古くなったデータは必ずしも保持しておく必要はなくバックアップ領域も上書きが可能である（バックアップのポリシーで世代管理等の考え方はあるが、ここでは割愛する）。

アーカイブは法令や監査のために一定期間保管することが目的であり、データを上書きするのではなく蓄積していくことをいう。一般的に使用頻度の低いデータをテープ装置等の外部記憶媒体に記録することになる。映像アーカイブは法令や監査とは目的が異なるが、技術的には同じといえよう。膨大な映像データを効率よく保管し、必要な時に取り出す手法である。今回は映像に特化したアーカイブのセッションとして 3 社から講師を招いた。

講演 1 株式会社シー・エル・シー カ石 高綱

「ASG 社 Atempo アーカイブプロダクト ASG Digital Archive の特徴と訴求ポイント」

Atempo 社は、1992 年 フランスで設立したデータ管理ソフトウェアメーカーで 2011 年 12 月に ASG 社に買収された。

ASG(Atempo) Time Navigator (ATN), ASG(Atempo) Digital Archive (ADA), ASG(Atempo) Live Navigator (ALN)の 3 つのプロダクトがあり、今回はその中から ADA が紹介された。ADA はデジタルメディアデータ、科学技術計算データ等のビッグデータ長期保存、ファイルサーバーの HSM/ILM アーカイブ、Final Cut や Avid、CatDV 等のアプリケーション連携を得意とするアーカイブのプラットフォームであり、コストパフォーマンスに優れた製品である。外部記憶はディスク装置、テープ装置など様々なメディアに対応し、LTFS 対応に更に注力している。

ポイントはいくつかあるが、まずは GUI であり、ドラッグ・アンド・ドロップでユーザが簡単にアーカイブ、リトリブが可能である。そして自由にメタデータを付与する事ができ、そこから検索をかけられる事、また API が公開されている事も見逃せない。

最大規模の導入事例は、National Film Board (カナダ国立映画制作庁)で、13,000 フィルム、6000 時間以上の映像コンテンツを保管している。iPhone アプリで NFB と検索すると出てくるが、このソフトから映像を検索し、ストリーミングを開始する裏側では NFB の MAM

と ADA が API 連携し動いている。使い勝手として一度試してみると良いだろう

講演 2 報映産業株式会社 向井 努

「コンテンツストレージマネジメントによるアーカイブ～Front Porch Digital 社 DIVArchive について」

Front Porch Digital 社は、2000 年 StorageTek 社からスピナウトしたメンバーで創設され、2008 年 SAMMA systems 社を傘下に収め、DIVArchive プロダクトファミリー - 製品として強化された。映像アーカイブに特化された製品で、既存のビデオテープなど、データ化されていない媒体をデジタル化し、そのコンテンツの利用および保管を一元的に管理出来るソリューションであり、多様なコンテンツ、ストレージ環境に対応する。DIVAdirector オプションにより、ネットワーク上のデスクトップからリモートでコンテンツへのアクセスが可能となる。アメリカ議会図書館を筆頭に、巨大ライブラリで多数の運用実績を持つ。

講演 3 アティックス LLC 岡本 隆行/株式会社シナジー 小林 伸行

「Archiware 社 PresSTORE で実現するシンプルで効率よいデータアーカイブ管理」

PresSTORE P4 Archive は簡単かつ安価にアーカイブを実現できる製品である。実データをサムネイル表示（ギャラリー表示）可能であり、アーカイブされたデータはインデックス化して管理され、MAM(Media Asset Management)機能による、検索、プレビューにより、目的のデータを素早く探し出せるのが特徴である。静止画像と動画形式にも対応。簡素な操作でアーカイブを自動化が可能。クロスプラットフォーム対応で、Mac, Linux, Windows, Solaris に対応。必要に応じて拡張可能なモジュラー型設計になっている。

所感

各セッションとも時間の関係で概要の説明となってしまった。多少物足りないと感じた方もおるのではないだろうか。

バックアップ/アーカイブの重要性は、以前から言われており、考え方に変わりはないが、今回は既存ファイルにあるメタデータに追加情報を付与し、その情報を MAM と連携しコンテンツのハンドリングを行う機能を備えている。こういった機能が今後益々重要になるのではないだろうか。

膨大なデータのデジタル化、今後も増えていくデータ、データ管理、保管方法、検索方法、などに困った場合は、こういったアーカイブソリューションを検討してはいかがだろうか。

最後に、JDSF では今後も JAVCOM 殿との技術交流セミナーを継続していく所存である。次期テーマなどご要望があればご連絡いただければ幸いである。

（JDSF 技術交流 WG 中川裕路・勝見昌幸）